

## 事業計画書

事業名	蛇松まちあるき地図プロジェクト
実施場所	蛇松緑道周辺
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。 2025 年 6 月 1 日 ～ 2025 年 12 月 31 日

## ◎事業概要

※事業の概要を 100～200 字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

蛇松緑道は、かつて鉄道が通っていた歴史ある道であり、現在も学生の登下校路や高齢者の散歩コースとして、多くの市民に使われています。本事業では、地域の住民、商店、作家とともにまち歩きや対話を重ね、地域の記憶や魅力を「蛇松の地図」として可視化します。多世代が関わりながら、暮らしと歴史を未来へつなぐ機会をつくります。

## ◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

蛇松緑道は、学生の通学路や高齢者の散歩道として親しまれ、地域の暮らしに深く根ざした場所です。しかし近年、その歴史や背景に触れる機会が少なくなり、高齢化により語り手や管理の担い手も減少しています。本事業では、地域住民をはじめ、商店主や作家など多様な立場の人々が協働し、まち歩きや対話を通じて「蛇松の地図」を制作。地域の記憶を記録・共有し、未来へつなぐきっかけをつくります。

## ◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
6 月から事業開始 9 月 1 日～3 日	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容（打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会）、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。 ※ハード部門については、12 月 31 日までに施設整備を終え、その後は施設を活用する計画としてください。 ・キックオフミーティングを実施 （参加者：地域住民、商店主、作家、博識者など） ・事業の趣旨・目的、進行プランの共有・確認
9 月 4 日～10 日	・現地調査・現状把握（現地見学、歴史資料の確認） ・住民への聞き取り調査を実施し、個々のエピソードや思い出を収集
9 月 15 日～26 日	・まち歩きイベントの開催（MAW 同時期開催） ・グループディスカッションにより、集めた情報を整理・共有
9 月 26 日～30 日	・集積情報を元に「蛇松の地図」の初稿作成（地図レイアウト、注釈、写真・資料の選定）
10 月 1 日～10 日	・フィードバックを基に地図の内容・デザインを修正 ・最終案の確認会議を実施し、意見を反映
10 月 10 日～15 日	・最終的な地図完成および印刷手配（必要に応じてデジタル版の作成） ・助成金報告書の作成および今後の活用計画のまとめ

## ◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載してください。

本事業により、蛇松緑道の歴史や魅力が可視化され、地域住民が自らのまちの価値を再認識する機会となります。また、世代や立場を超えた協働を通じて、地域内の新たなつながりや対話が生まれ、まちづくりの担い手の裾野が広がることが期待されます。制作された「蛇松の地図」は、地域学習の教材や観光・まち歩きガイドとしても活用可能であり、地域内外への発信を通じて、まちの魅力を継続的に伝えるツールとなります。将来的な継続活動や他地域への展開の土台にもなります。

また、地域の学校での授業（地域学習）や、観光案内所での活用、自治体主催のまちづくりイベントでの資料など、多用途に活用可能です。

成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。 地図の制作数：1000 部（紙） 参加者数：約 30 人程 まち歩き・対話企画開催：2 回 住民インタビュー件数：約 10 件 地図の配布先数：約 20 か所程 SNS や WEB での情報発信：5 回以上	指標の検証方法	※左記指標の検証方法を記載してください。  印刷部数の記録および完成した地図データの保存・提出 イベント参加者名簿・アンケート記入・記録写真による確認 配布先リストの共有 実施報告書・写真記録での確認投稿記録の共有
------	---	---------	--

**◎評価の視点に合致していることの説明** ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

社会的必要性	※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。  蛇松緑道は高齢者や子どもたちにとって日常的な通行・交流の場でありながら、その歴史や価値を知る機会が減少しています。高齢化により語り手や管理の担い手が少なくなる中、地域の記憶を記録し、未来へ引き継ぐ取り組みが求められています。
地域性	※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。 本プロジェクトは、沼津市の旧鉄道跡地である蛇松緑道を舞台に、地域住民の生活に密着したテーマを扱います。まちの記憶を再発見し、身近な風景に対する愛着を深める取り組みであり、地域ならではの価値を掘り起こすものです。
独創性	※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。  「地図づくり」という表現活動を通して、住民、商店主、作家が協働し、記憶や物語を視覚的に編み直す手法は、アートと地域参加の両面を兼ね備えたユニークな取り組みです。個人の声を地域の資源として可視化します。
実現性	※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。 期間内に実施可能なスケジュールを策定しており、協力団体・参加者も確保済みです。地元住民や作家のネットワークを活かし、無理のない範囲で事業を遂行できます。制作物は紙・デジタル双方で展開可能です。
発展性	※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。 作成した地図は地域学習や観光資源としても活用でき、次年度以降のワークショップやまち歩きイベントなどへ発展可能です。記録・発信を通じて他地域への展開や、継続的な地域交流のきっかけにもなります。

**◎次年度以降の活動予定**

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または 2 回目の応募で、助成の継続（最大 3 年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

本事業で得られたつながりや知見をもとに、次年度以降は年に１回以上の「まち歩き」と「意見交換会」の開催を継続的に実施し、地域内の対話と記録の場を育てていきます。また、蛇松緑道沿いにある商店や施設、住民とのさらなる連携を図りながら地図を起点にした交流や、新たな企画の創出にも発展させていく予定です。

さらに、今後は地図の再印刷を定期的に行い、紙媒体として地域の広範な層に配布することで、利用しやすい環境を維持します。加えて、デジタル化を進め、スマートフォンやタブレットで閲覧可能なインタラクティブ地図の開発を目指します。これにより情報更新の迅速化と利便性の向上を図ります。教育分野では、地域の歴史や文化を盛り込んだ教材として学校と連携し、地図を活用した学習の推進を計画しています。これらの取り組みは地域の理解と愛着を深めるだけでなく、観光やイベントにも活かされ、持続的な地域活性化に寄与することを期待しています。

Q3. また、経費を抑えた運営を目指し、ボランティアの活用やオンライン会議ツールの導入により人件費や移動費の削減に努めます。さらに、外部助成金や地元企業の協賛を積極的に活用し、運営費の安定化を図る計画です。これにより、次年度以降も持続可能な形で地域活動を継続していきます。

### ◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。